



4 月 5 月 6 月の 接遇課題 『おもてなしの心溢れる確かな接遇を目指そう』

「看護週間行事」を終えて

看護部師長会

フローレンス・ナイチンゲールが「クリミア戦争」時に傷病兵の看護に尽くされた「看護の心」を 160 年経た現在も受け継ぎ全国各地で様々なイベントが行われました。「病気は、本来その人が持っている自然治癒力が治す」という言葉を皆さんは、ご存知ですか？これから、2025 年には 75 歳以上の高齢者の割合が 30% を超すとされています。私たち看護師は、患者さんが病気を抱えながらも住み慣れた地域で暮らしていけるように「看護の力」をさらに高めていきたいと思っております。下記に、当院の看護週間行事をご紹介します。

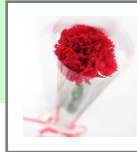
<健康相談コーナー>



今年度は、40 名の方が外来の待ち時間を利用して健康相談に訪れて下さいました。昨年より内容をパワーアップし血糖測定、血管年齢測定を加え数値で示すことで、患者さん、市民の方もご自分の健康状態に興味を持たれ、多くの感謝の言葉がありました。

5 月 13 日（火）、入院患者さん全員にカーネーションとメッセージカードをプレゼント。患者さんからはとてもすてきな笑顔と「ありがとう」の言葉を頂きました。中には涙を流し喜ばれた方もいらっしゃいました。私たち看護師も温かい気持ちになり、明日からの元気に繋がりました。

(写真：三原ケーブルテレビ取材光景)



5 月 10 日（土）には広島県出身の「森本ケンタさん」による「看護師癒しコンサート」を開催。約 100 名近くの聴衆が、ギター演奏と美しい高音の歌声に、心が癒され充実したひと時を過ごすことが出来ました。



「7つの習慣」講演会に参加して 松尾副院長

先日、J&J の鈴木孝さんによりスティーブン・リチャーズ・コヴィー氏の著書である『七つの習慣』について講演がありました。『成功には原則があった』などビジネス書のような副題もありこれを機会に手に取ってみました。それは個人、家庭、会社、人生のすべてに生かすことができる、より良い人生のためのヒントがありました。今回は第一の習慣-主体性である。第二の習慣-終わりを思い描くことから始める。についての講演で、熱のこもったところを揺さぶられる内容でした。まず、主体性である-（問題が自分の外にあると考えるならば、その考え方こそが問題である）原因を他人や環境のせいにするのではなく、自分が変わり、できることから始めてゆく主体性が必要である。次に、終わりを思い描くことから始める。まず目標のイメージを膨らませ、そのイメージに向かい、しなければならぬことを明確にする。このような考え方、物事のとらえ方一つでこうも印象が変わり、まず何をすべきかを気づかせてくれるとても良い時間が過ぎました。最後に、オリンピックの選考会でプレゼンテーションを行った佐藤真海さん(骨肉種で片足を失い義足となった方)の、なくしたものを見るのではなく、今あるものを見て前に進んでゆく、その姿勢に非常に感銘を受けました。なかなかうまく表現できませんが、病気や障害に向き合う患者さんにより良い人生を送ってもらうための大きなヒントをいただきました。これを生かしより地域から選ばれる病院を目指し頑張ってくださいと思います。

★「口腔ケアチーム活動」の紹介

3 病棟 熊田看護師

平成 26 年 3 月より口腔ケアチームとして活動を始めました。最初の活動として、患者さんが抱える問題点を抽出するための口腔ケアチェックシートを作成しました。患者さんの口腔内を一定期間毎に観察して、前回から改善したこと・悪化したことを比べることでケアの方法が適切であるかどうかを判断することができます。担当看護師から相談を受けてチェックシートで問題を抽出し、強く食いしる方には開口器を使用して開口状態をキープして観察とケアが十分行えるようになりました。また、患者さん自身が口唇を噛み 傷になってしまう場合は、歯科医師と連携していき看護だけでは解決できない問題にチームとして関わって行きました。口腔ケアチームの介入によって患者さんの QOL を少しでも保つことができるように関わりたいと思っています。

毎月、委員会で 2 部署が「5 S 活動」への取組を発表しています。



改善前



リハビリ科の 5 S 発表
躰は、毎週、月曜日
に行います。



改善後